

18. 八嶽類子、杉野祐子、島田恵、荒井理那、伊藤紅、石垣今日子、山田由紀、武田謙治、大金美和、池田和子、遠藤貴子、西垣昌和、数間恵子、湯永博之、岡慎一。 HIV/AIDS患者の脂質代謝コントロールのための健康行動支援の検討 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
19. 塚田訓久、青木孝弘、田里大輔、中村春香、西島健、神村麻穂子、柳沢邦雄、渡辺恒二、渡辺珠代、田沼順子、本田元人、矢崎博久、本田美和子、湯永博之、照屋勝治、立川夏夫、菊池嘉、岡慎一。 新規抗HIV薬の使用経験と有害事象 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
20. 渡辺恒二、中村春香、青木孝弘、西島健、田里大輔、柳沢邦雄、神村麻穂子、渡辺珠代、本田元人、塚田訓久、田沼順子、矢崎博久、本田美和子、湯永博之、照屋勝治、菊池嘉、岡慎一。 当院におけるアタザナビル使用473症例の検討 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
21. 矢崎博久、中村春香、青木孝弘、西島健、田里大輔、柳沢邦雄、神村麻穂子、渡辺恒二、渡辺珠代、本田元人、田沼順子、塚田訓久、本田美和子、湯永博之、照屋勝治、菊池嘉、岡慎一。 当院での新規抗HIV薬の変遷とFPV投与者の経過について（続報） 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
22. 照屋勝治、西島健、中村春香、田里大輔、青木孝弘、渡辺恒二、柳沢邦雄、神村麻穂子、渡辺珠代、塚田訓久、本田元人、矢崎博久、田沼順子、本田美和子、湯永博之、菊池嘉、岡慎一。 HIV合併結核における抗結核薬の有害事象についての検討 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
23. 林田庸総、湯永博之、菊池嘉、岡慎一。 当センターにおけるBEDアッセイを用いた2003年と2007年以降の新規患者の解析 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.
24. 杉浦互、湯永博之、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、伊藤俊広、原孝、佐藤武幸、石ヶ坪良明、上田敦久、近藤真規子、今井光信、貞升健志、長島真美、福武勝幸、山元泰之、田中理恵、加藤信吾、宮崎菜穂子、藤井毅、岩本愛吉、藤野真之、仲宗根正、巽正志、椎野慎一郎、岡慎一、林田庸総、服部純子、伊部史朗、藤崎誠一郎、金田次弘、浜口元洋、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡邊香奈子、渡邊大、白阪琢磨、柴原健、森治代、小島洋子、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎。 2003-2007年の新規HIV-1感染者における薬剤耐性頻度の動向 日本エイズ学会総会. 2008年. 大阪.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。



国内共同研究の基盤整備

研究分担者： 満屋 裕明

熊本大学大学院医学薬学研究部 血液内科学・感染免疫診療部教授

研究要旨

本邦のHIV感染症に対する臨床研究、特に多施設共同臨床試験の実績はほとんどなく、遅れた分野といえる。本邦のHIV診療領域における共同研究基盤の整備のため、米国のThe AIDS Clinical Trials Group (ACTG)の構成、活動状況を分析、紹介、参考としながら、ブロック拠点病院の連携を、臨床試験を共同で推進することにより活性化を図る事を目的とし、共同研究グループを立ち上げ、実際に3つの臨床試験を開始している。

A. 研究目的

本邦のHIV感染症に対する臨床研究、特に多施設共同臨床試験の実績はほとんどなく、遅れた分野といえる。本邦のHIV診療領域における共同研究基盤の整備のため、米国のThe AIDS Clinical Trials Group (ACTG)の構成、活動状況を分析して、紹介、参考としながら、ブロック拠点病院の連携を、臨床試験を共同で推進することにより活性化を図る事を目的とする。

B. 研究方法

研究基盤を整備するには、先ず多施設での臨床試験を実施し、そのレベルを欧米における臨床試験のレベルに引き上げることが必要である。我々は本邦におけるHIV診療の治験を進める医療体制確立のため、US ACTGの組織を参考とし、本研究班をプラットフォームとして、日本における多施設共同での臨床試験の導入をはかった。そこで、田邊班で企画されている多施設共同臨床試験の中から、1) 日本人に最適な1日1回投与による治療法を検討するET study (アタザナビルを固定し、エブジコムとツルバダの無作為割り付けを行う臨床研究)、2) アタザナビルによるビリルビン上昇を軽減することを目的としたウルソ試験、3) HIV/HCV合併でIFN治療失敗例に対する少量IFN療法、の3つに関し臨床試験の実施が適切に推進されるよう、すべての試験にお

いて分担研究者(満屋)は、効果・安全性委員長となり臨床試験の安全・円滑な遂行に努めた。

(倫理面への配慮)

これら3つの臨床試験は、すべて参加施設において倫理委員会の承認を得ている。開発中の化合物の臨床試験導入に際して、volunteersについては医学部・大学内の該当するIRBで倫理面での適合性について許可を申請、認可された後で、臨床試験の具体的な内容、及び考えられる副作用の危険性について十分な説明を行い、承諾が得られた後に試験を開始する。

C. 研究結果

- 1) HIV感染症に対する1日1回併用療法として、アタザナビル/リトナビルを固定しエブジコムとツルバダを無作為割り付けするオープンラベル多施設共同臨床試験 (ET study)

ET studyにおいては、症例の組み入れがスムーズにいくよう事務局に対し定期的に組み入れ状況を参加全施設に公開する事を指示している。また、海外の安全性情報にも注意を払い、関連する事象がおこったときには、臨床試験に参加している患者の安全を第一優先に迅速な対応ができるよう委員会を開催した。今年度は、この試験に関連した2つの情報

(ACTG5202試験で高ウイルス量ではエブジコムはツルバダに劣るといった情報、DAD試験でエブジコムの成分であるアバカビルを含む治療を受けている患者の心血管障害の有病率が高い)を海外から入手することができ、本試験の継続実施に関する委員長コメントを出した。

2) ウルソデオキシコール酸のアタザナビルによる高ビリルビン血症改善に関する臨床試験(ウルソ試験)

ウルソ試験においては、大きな有害事象は出ていないが、まもなく中間評価にかかる症例数に達するため、その後の継続検討も含めた委員会を開催予定である。

3) インターフェロン療法が奏功しなかったHCV・HIV重複感染者に対するペグインターフェロン α -2aの少量長期投与の有効性と安全性の検討 (low dose IFN study)

少量IFN療法では、HCV単独感染の患者においてはIFN療法失敗後に追加治療を行っても病状の進行を抑えられないという報告も出ており、肝臓の専門家を交えた委員会を開催し、本試験の継続についても検討する委員会を開催予定である。

D. 考察

US ACTGの組織概要を紹介、参考にしながら、国内共同研究の基盤整備として、HIV感染症に対する医療体制の活性化を目的とした。治療法に関するRCTを1つ、適応拡大に関するpilot studyを2つ、多施設共同で行っている。今後は組み入れ数を迅速に確保できるかどうか課題である。

本来、医師主導型の臨床試験を推進するためには、米国でのACTGや日本での癌研究のJCOGのような機関が不可欠である。しかし、日本におけるエイズ分野ではそのような機関は絶対的に不足しており、臨床医にすべて任されているのが現状である。本研究は、将来的にそのような機関ができるまでの間、臨床研究実施をサポートするという目的で立ち上げた。海外の最新情報を入手、迅速にその内容を吟味し、臨床試験継続の可否を判断していく作業は、極めて専門的知識を必要とする。実際、この1年間でも2つの大きな判断を必要とする情報を入手することができた。その意味では、この研究の重要性は大きいと考えられる。

また、臨床研究の問題点として、医師賠償保険、補償保険、PL法など、医療上のミスがあった際にすべてをカバーする保険がなく、重篤な副作用に対する補償に関する問題が残る。今後は米国などで処方薬として認可され、本邦では認可されてもいない新規の抗HIV剤であるdarunavir(プロテアーゼ阻害剤)、etravirine(非スクレオント系逆転写酵素阻害剤)、isentress(インテグラーゼ阻害剤)などを用いた臨床試験を多施設共同研究という形で展開することも考えていきたい。

E. 結論

本研究により日本における抗HIV剤の大規模臨床試験の導入への進展が図られると考えられた。エイズ分野において日本においても始まった多施設共同臨床試験を補助することができた。この経験を積み上げ臨床研究基盤整備を推進したい。

F. 健康危険情報

現在のところ特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Aoki M, David JV, Koh Y, Aoki-Ogata H, Miyakawa T, Yoshimura K, Maeda K, and Mitsuya H. (2009) Non-cleavage Site Gag Mutations in Amprenavir-resistant HIV-1 Predispose HIV-1 to Rapid Acquisition of Amprenavir Resistance But Delays Development of Resistance to Other Protease Inhibitors. *J Virol*. 83:3059-3068.
- Koh Y, Das D, Leschenko S, Nakata H, Ogata-Aoki H, Amano M, Nakayama M, Ghosh AK and Mitsuya H. (2008) GRL-02031: A Novel Nonpeptidic Protease Inhibitor (PI) Containing A Stereochemically Defined Fused Cyclopentanyltetrahydrofuran (Cp-THF) Potent Against Multi-PI-Resistant HIV-1 In Vitro. *Antimicrob Agents Chemother*. 53:997-1006.
- Ghosh AK, Chapsal BD, Baldrige A, Ide K, Koh Y and Mitsuya H. (2008) Design and Synthesis of Stereochemically Defined Novel Spirocyclic P2-Ligands for HIV-1 Protease Inhibitors. *Org Lett*. 10: 5135-8.
- Ghosh AK, Gemma S, Takayama J, Baldrige A, Leshchenko-Yashchuk S, Miller HB, Wang YF, Kovalevsky AY, Koh Y, Weber IT and Mitsuya H. (2008) Potent HIV-1 protease inhibitors incorporat-

- ing meso-bicyclic urethanes as P2-ligands: structure-based design, synthesis, biological evaluation and protein-ligand X-ray studies. *Org Biomol Chem*. 6: 3703-13.
5. Ghosh AK, Gemma S, Baldrige A, Wang YF, Kovalevsky AY, Koh Y, Weber IT and Mitsuya H. (2008) Flexible cyclic ethers/ polyethers as novel P2-ligands for HIV-1 protease inhibitors: design, synthesis, biological evaluation, and protein-ligand X-ray studies. *J Med Chem*. 51: 6021-33.
 6. Maeda K, Das D, Yin PD, Tsuchiya K, Ogata-Aoki H, Nakata H, Norman RB, Hackney LA, Takaoka Y and Mitsuya H. (2008) Involvement of the second extracellular loop and transmembrane residues of CCR5 in inhibitor binding and HIV-1 fusion: insights into the mechanism of allosteric inhibition. *J Mol Biol*. 381: 956-74.
 7. Kawamoto A, Kodama E, Sarafianos SG, Sakagami Y, Kohgo S, Kitano K, Ashida N, Iwai Y, Hayakawa H, Nakata H, Mitsuya H, Arnold E, Matsuoka M. (2008) 2'-deoxy-4'-C-ethynyl-2-halo-adenosines active against drug-resistant human immunodeficiency virus type 1 variants. *Int J Biochem Cell Biol*. 40:2410-20.
 8. Nakata H, Steinberg SM, Koh Y, Maeda K, Takaoka Y, Tamamura H, Fujii N and Mitsuya H. (2008) Potent synergistic anti-human immunodeficiency virus (HIV) effects using combinations of the CCR5 inhibitor aplaviroc with other anti-HIV drugs. *Antimicrob Agents Chemother*. 52: 2111-9.
 9. Mitsuya H, Maeda K, Das D and Ghosh AK. (2008) Development of protease inhibitors and the fight with drug-resistant HIV-1 variants. *Adv Pharmacol*. 56: 169-97.
 10. Ghosh AK, Chapsal BD, Weber IT and Mitsuya H. (2008) Design of HIV protease inhibitors targeting protein backbone: an effective strategy for combating drug resistance. *Acc Chem Res*. 41: 78-86.
2. 学会発表 (国際学会のみ)
1. "Involvement of the Second Extracellular Loop (ECL2) and Transmembrane Residues of CCR5 in Inhibitor Binding and HIV-1 Fusion." (H-4041) K. Maeda K, Das D, Yin PD, Tsuchiya K, Ogata-Aoki H, Nakata H, Norman R. I, L. Hackely L, Takaoka Y and Mitsuya H. 48th Annual Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC) / 46th Annual Meeting of the Infectious Diseases Society of America (IDSA), October, 25-28, 2008, Washington, DC, US.
 2. "Study of Cellular CCR5 Dynamics and its Alterations by CCR5 Inhibitors Using YFP-Tagged CCR5-expressing Cells." (H-4043) Nakata H, Kamata W, Ogata-Aoki H, Maeda K and H. Mitsuya H. 48th Annual Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC) / 46th Annual Meeting of the Infectious Diseases Society of America (IDSA), October, 25-28, 2008, Washington, DC, US.
 3. "Bimodal Binding to HIV-1 Protease of GRL-02031 (G31), a Novel Protease Inhibitor (PI) Containing a Cyclopentanyltetrahydrofuran (Cp-THF)." (H-1267), Koh Y, Das D, Leschenko S, Nakata H, Ogata-Aoki H, Amano M, Nakayama M, Ghosh AK and Mitsuya H. 48th Annual Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC) / 46th Annual Meeting of the Infectious Diseases Society of America (IDSA), October, 25-28, 2008, Washington, DC, US.
 4. "Non-peptidyl Small Molecule Protease Dimerization Inhibitors: Molecular and Structural Analysis of Their HIV-1 Inhibition and Interactions with Protease Monomer Subunit." (Poster 733), Koh Y, Matsumi S, Das D, Amano M, Davis DA, Li J, Leschenko S, Baldrige A, Shioda T, Yarchoan R, Ghosh AK, Mitsuya H. 15th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections, Feb 3-6, 2008. Boston, MA, US.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得
特になし
 2. 実用新案登録
特になし



薬剤耐性検査ガイドラインの作成

研究分担者： 杉浦 亙

国立感染症研究所 エイズ研究センター研究員

研究要旨

本研究では適切な薬剤耐性HIV遺伝子検査の運用のための検査適用のガイドラインの作成に取り組んだ。以前のガイドラインの情報を更新させるとともに今回の改定では2007年から2008年にかけて承認された新規薬剤ダルナビル、ラルテグラビル、マラビロクに関する記載を充実させた。また国内における薬剤耐性検査の実施状況調査についてもその結果と問題点を記載した。

A. 研究目的

HIV/AIDS治療を進める際に治療薬剤を選択する指標として薬剤耐性検査が有効であることは多くの研究により実証されている。平成18年4月に薬剤耐性HIV検査は保険診療とし認められ、抗HIV治療の選択及び再選択の目的で行った場合に、3月に1回を限度として算定できこととなった。本研究では適切な薬剤耐性HIV遺伝子検査の運用のための検査適用のガイドラインの作成に取り組む。

B. 研究方法

1. ガイドライン改定

平成18、19年度に刊行したガイドラインの情報を更新するとともに、本年度は医療現場からの意見を参考に内容の改定を行う。

2. 新規抗HIV薬に対する薬剤耐性の解説

2007年から2008年にかけて承認された新薬、ダルナビル、ラルテグラビル、マラビロクの薬剤耐性について記述する。

3. 薬剤耐性検査実施状況調査

適切に薬剤耐性検査が実施されるように検査の現状調査結果を記載する。調査は「服薬アドヒアランスの向上・維持に関する研究班（研究代表者：白阪琢磨）」班の分担研究「服薬支援としての薬剤耐性

検査の意義に関する研究（研究分担者：西澤雅子）」で行われたものであり、本ガイドラインではその結果を公開する。

C. 研究結果

1. ガイドライン改定

今回の改定では2007年から2008年にかけて複数の薬剤が承認されたことを受けて耐性検査の実施を推奨する項目の追加を行った。前版の6つの推奨項目に「治療中何らかの理由で薬剤を変更する時」を加え以下の7項目とした。

- (1) HIV感染の新規診断時（急性感染症例を含む）
- (2) 治療開始時
- (3) 治療開始後十分な治療効果が認められない時
- (4) 治療中薬剤耐性の出現が疑われた時
- (5) 治療中何らかの理由で薬剤を変更する時
- (6) 治療の中断と再開時
- (7) 母子感染において予防投与を行う時

今回登場した新規薬剤の適応はウイルス学的失敗だけでなく、副作用による服用困難なども変更理由として該当するが、副作用等が理由の場合は変更の際に薬剤耐性検査が行われないと予想される。しかしながら新薬変更後にウイルス学的失敗に陥った際、治療薬選択指標に有用であることと、薬剤耐性への注意を喚起することを狙い、本項を追加した。

この様な事例では血中HIV RNAコピー数が低いために検査が困難なことも想定されるが、HIV RNAが1000コピー/ml以下であっても、超遠心操作で濃縮することにより、遺伝子検査が可能になることが多く、妥当な推奨項目と考える。

2. 新規抗HIV薬に対する薬剤耐性の解説

ガイドライン後半にダルナビル、ラルテグラビル、マラビロク各々の薬剤耐性変異および耐性獲得機序についての解説を記述した。

3. 薬剤耐性検査実施状況調査

「服薬アドヒアランスの向上・維持に関する研究班（研究代表者：白坂琢磨）」班の分担研究「服薬支援としての薬剤耐性検査の意義に関する研究（研究分担者：西澤雅子）」で宮崎菜穂子研究協力者に行われた結果を記載した。

D. 考察

薬剤耐性検査ガイドラインの改定を行った。今回の改定では新規に登場した3つの薬剤、ダルナビル、ラルテグラビル、マラビロクに焦点をあてて記載の更新、充実を行ったが、これらの新薬の薬剤耐性に関してはまだ文献情報のみで、実際の検査データなどは得られていない。今後は日本におけるこれらの新薬の薬剤耐性情報を収集し、それらを取り込むことによりガイドラインの更なる充実を目指したい。

E. 結論

薬剤耐性検査ガイドライン第3版を刊行した。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Deforche K, Camacho RJ, Grossman Z, Soares MA, Van Laethem K, Katzenstein DA, Harrigan PR, Kantor R, Shafer R, Vandamme AM: non-B Workgroup. Bayesian network analyses of resistance pathways against efavirenz and nevirapine. *AIDS*. 18:22(16):2107-15. Oct 2008

2. Furuya K, Omura M, Kudo S, Sugiura W, Azuma H.: Recognition profiles of microsporidian *Encephalitozoon cuniculi* polar tube protein 1 with human immunoglobulin M antibodies. *Parasite Immunol*. 2008 Jan;30(1):13-21.
3. S Yoshida, H Gatanaga, T Itoh, M Fujino, M Kondo, K Sadamasu, T Kaneda, F Gejyo, T Shirasaka, H Mori, M Ueda, N Takata, R Minami, W Suigura and the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network.: Prevalence of drug resistance associated mutations in newly diagnosed HIV/AIDS patients in Japan from 2003-2007. *Antiviral Therapy*. 13(3):A162, 2008
4. Okuma K, Tanaka R, Ogura T, Ito M, Kumakura S, Yanaka M, Nishizawa M, Sugiura W, Yamamoto N, Tanaka Y.: Interleukin-4-Transgenic hu-PBL-SCID Mice: A Model for the Screening of Antiviral Drugs and Immunotherapeutic Agents against X4 HIV-1 Viruses. *J Infect Dis*. Jan 1;197(1):134-41, 2008
5. Rajintha M Bandaranayake, Moses Prabu-Jeyabalan, Junko Kakizawa, Wataru Sugiura, and Celia Schiffer. :Structural Analysis of Human Immunodeficiency Virus Type 1 CRF01_AE Protease in Complex with the Subtype p1-p6. *Journal of Virology*, 82(13),2008

2. 学会発表

1. Junko Hattori, S Yoshida, H Gatanaga, M Kondo, K Sadamasu, T Shirasaka, H Mori, R Minami, W Sugiura, and the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Increasing Prevalence of Drug-resistance Mutations among Treatment-naïve HIV-infected Patients in Japan, 2003 to 2007
New Outbreak of HBV Genotype A in HIV-1-co-infected Cases in Japan.
2. Seiichiro Fujisaki, Y Yokomaku, J Hattori, S Ibe, M Utsumi, M Hamaguchi, and W Sugiura S Yoshida, H Gatanaga, T Itoh, M Fujino, M Kondo, K Sadamasu, T Kaneda, F Gejyo, T Shirasaka, H Mori, M Ueda, N Takata, R Minami, W Suigura and the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network.: Prevalence of drug resistance associated mutations in newly diagnosed HIV/AIDS patients in Japan from 2003-2007. XVII International HIV Drug Resistance Workshop. Jun. 10-14, 2008, Sitges, Spain.
3. Rajintha Bandaranayake, M Prabu-Jeyabalan, J Kakizawa, W Sugiura and C Schiffer.: The Effect of Sequence Polymorphisms on CrF01_AE Protease Structure. 15th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections. Feb.3-6,2008, Boston, USA.

4. 岩谷靖雅、吉居廣朗、武田 哲、杉浦 互: HIV-1 Vif 依存的なAPOBEC3Gのエピキチン化サイトの同定. 第56回日本ウイルス学会学術集会. 2008年10月26～28日、岡山
5. 宮崎菜穂子、松下修三、藤井 毅、岩本愛吉、杉浦 互: 既治療患者における薬剤耐性(多剤耐性) HIVの現状調査. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
6. 巽 正志、梅木優子、竹川菜穂、松田昌和、橋本修、西澤雅子、石古博昭、杉浦 互、山本直樹: 薬剤耐性ウイルスの感染性分子クローンを軸にしたGenotypeとPhenotypeをつなぐ実験解析系. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
7. 岩谷靖雅、吉居廣朗、武田 哲、杉浦 互: APOBEC3GのHIV-1 Vifに依存したエピキチン化サイトに関する研究. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
8. 柴田潤子、岩谷靖雅、任 鳳蓉、田中 博、杉浦 互: HIV-1ゲノムRNAにおけるpoly(A)付加部位に関する研究. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
9. 大出裕高、横山勝、佐藤裕徳、伊部史朗、藤崎誠一郎、間宮均人、濱口元洋、杉浦 互、横幕能行: HIV-1プロテアーゼにおける耐性変異L89Vの立体的影響. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
10. 椎野禎一郎、貞升健志、長島真美、杉浦 互: HIV-1薬剤耐性変異の感染者集団における固定/消失時間の解析. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
11. 正岡崇志、梁明秀、巽 正志、杉浦 互、森下了、澤崎達也、山本直樹: 酵素活性を指標とした新規HIVプロテアーゼ薬剤耐性検査法の開発. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
12. 星野忠次、辰巳絢子、篠原祐子、大出裕高、杉浦 互: コンピューターによる薬剤耐性HIV-1に対する薬効予測の試み. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
13. 横幕能行、大出裕高、間宮均人、濱口元洋、伊部史朗、藤崎誠一郎、藤崎菜穂子、金田次弘、杉浦 互: Enfuvirtide (T-20) +raltegravir (RAL) +darunavir (DRV) +etravirine(TMC125)+lamivudine (3TC) の多剤高度耐性HIV-1感染症に対する治療効果. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪
14. 杉浦 互、湯永博之、吉田 繁、千葉仁志、小池隆夫、伊藤俊広、原 孝、佐藤武幸、石ヶ坪良明、上田敦久、近藤真規子、今井光信、貞升健志、長島真美、福武勝幸、山本泰之、田中理恵、加藤真吾、宮崎菜穂子、藤井 毅、岩本愛吉、藤

野真之、仲宗根 正、巽 正志、椎野禎一郎、岡慎一、林田庸総、服部純子、伊部史朗、藤崎誠一郎、金田次弘、濱口元洋、上田幹夫、大家正泰、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊 大、白阪琢磨、栗原 健、森 治代、小島洋子、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎: 2003-2007年の新規HIV-1感染者における薬剤耐性頻度の動向. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26～28日、大阪

H. 知的所有権の出願・取得状況

該当なし

G. 知的所有権の出願・取得状況

該当なし

研究協力者一覧

研究分担者： 濱口 元洋 (独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターエイズ・感染症診療部長)

研究協力者：

間宮 均人	(国立病院機構 名古屋医療センター 感染症科医長)
横幕 能行	(国立病院機構 名古屋医療センター 感染症科)
脇坂 達郎	(国立病院機構 名古屋医療センター 感染症科)
三和 治美	(国立病院機構 名古屋医療センター 看護師)
山田由美子	(国立病院機構 名古屋医療センター 看護師)
奥村かおる	(国立病院機構 名古屋医療センター 看護師)
菊池恵美子	(国立病院機構 名古屋医療センター、エイズ予防財団)
小塚 雅子	(国立病院機構 名古屋医療センター、エイズ予防財団)
奥村 直哉	(国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部)
平野 淳	(国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部)
寺畑 奈美	(国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部)
高橋 昌明	(国立病院機構 名古屋医療センター 薬剤部)
松岡亜由子	(国立病院機構 名古屋医療センター カウンセラー)
金田 次弘	(国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター)
伊部 史朗	(国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター)
服部 純子	(国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター)
藤崎誠一郎	(国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター)
藤崎彩恵子	(国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター)
照屋 勝治	(国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)
富成伸次郎	(国立病院機構 大阪医療センター 免疫感染症科)
高田 昇	(広島大学病院 輸血部、エイズ医療対策室)
関 康博	(熊本大学大学院 医学薬学研究部 血液内科学分野)
佐藤 典宏	(北海道大学病院 高度先進医療支援センター)
西巻 雄司	(国立病院機構 仙台医療センター 呼吸器科)
井出 博生	(東京大学医学部附属病院 企画情報運営部)
赤羽 学	(奈良県立医科大学 健康政策医学講座)
小田原 隆	(東京大学医科学研究所 先端医療研究センター)
宮崎菜穂子	(東京大学医科学研究所 薬剤部)
藤田 啓子	(広島大学病院 薬剤部)
石川 英子	(豊橋市民病院 薬局)
山本 典子	(岡崎市民病院 薬局)
間瀬 悟	(安城更生病院 薬剤供給部門)
鈴木 竜太	(藤田保健衛生大学病院 薬剤部)
磯部 聖子	(市立鳥田市民病院 診療技術部医薬品情報室)
浮田 浩利	(磐田市立総合病院 薬剤部)
佐原 琴美	(聖隷浜松病院 薬剤部)
渡辺 浩臣	(富士市立中央病院 薬剤科)
杉山沙由理	(静岡県立総合病院 薬剤部)
村松 英彰	(浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部)
佐藤かをり	(県西部浜松医療センター 薬剤科)
瀬戸 弘和	(市立伊東市民病院 医療技術部薬剤室)
広瀬 迪子	(岐阜県立下呂温泉病院 薬剤部)
西洞 正樹	(高山赤十字病院 薬剤部)
森 尚義	(三重県立総合医療センター 薬剤部)
稲吉 隆行	(国立病院機構 三重中央医療センター 薬剤科)
石川 雅子	(千葉県健康福祉部 疾病対策課 感染症対策室)
浅野あかね	(岡崎市民病院 医療相談室)

志田 卓弥 (国立病院機構 静岡医療センター 地域医療連携室)
藤江 京子 (浜松医科大学医学部附属病院 医療サービス課)
鶴見 広美 (岐阜大学医学部附属病院 看護部)
増田 友紀 (三重県立総合医療センター 地域連携室)
小嶋 俊一 (国立病院機構 静岡医療センター 内科)
野毛 一郎 (沼津市立病院 薬剤部)
池谷 健 (藤枝市立総合病院 診療部小児科)
竹内 元二 (静岡済生会総合病院 血液内科)
安藤 恵 (静岡済生会総合病院 地域医療相談科)
鶴見 寿 (岐阜大学医学部附属病院 血液感染症内科)
笠原 千嗣 (岐阜大学医学部附属病院 血液感染症内科)
谷口 晴記 (三重県立総合医療センター 産婦人科)
葛田 衣重 (千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部)
石川 泉 (岡崎市民病院 看護局)
兵道美由紀 (安城更生病院 医療安全部門感染対策課)
鈴木智恵子 (安城更生病院 看護部)
芹澤むつ子 (沼津市立病院 看護部)
中野 明美 (沼津市立病院 看護部)
羽根田ちな美 (静岡赤十字病院 看護部)
山本 弥生 (国立病院機構 三重中央医療センター 看護部)
患者様のお母様

研究分担者： 小池 隆夫 (北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科教授)

研究協力者： 佐藤 典宏 (北海道大学病院 高度先進医療支援センター)
今村 雅寛 (北海道大学大学院 医学研究科血液内科学)
橋野 聡 (北海道大学大学院 医学研究科病態制御学専攻病態内科学講座)
遠藤 知之 (北海道大学病院 第二内科)
北川 善政 (北海道大学病院 口腔系歯科)
清水 力 (北海道大学病院検査・輸血部)
吉田 繁 (北海道大学病院検査・輸血部)
大野 稔子 (北海道大学病院 看護部)
渡部 恵子 (北海道大学病院 看護部、リサーチレジデント)
富田 健一 (北海道大学病院 HIV相談室)
尾谷 ゆか (北海道大学病院 HIV相談室)
田村 恵子 (北海道大学病院 HIV相談室、リサーチレジデント)

研究分担者： 伊藤 俊広 (独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター血液内科・内科医長)

研究協力者： 佐藤 功 (宮城県 仙台医療センター 内科医師)
和田 裕一 (宮城県 仙台医療センター 副院長)
西巻 雄司 (宮城県 仙台医療センター 呼吸器科医師)
山口 泰 (宮城県 仙台医療センター 歯科口腔外科医長)
小住 好子 (宮城県 仙台医療センター 薬剤師)
佐藤 愛子 (宮城県 仙台医療センター カウンセラー)
渋谷 知歩 (宮城県 仙台医療センター)
鈴木 智子 (宮城県 仙台医療センター 事務)
玉木 祐介 (宮城県 仙台医療センター 歯科口腔外科医師)
正田 美鈴 (宮城県 仙台医療センター 看護師)
武藤 愛 (宮城県 仙台医療センター 看護師)
小倉 美緒 (宮城県 仙台医療センター ケースワーカー)
小原 貴子 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
小住 好子 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
佐藤 麻希 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
後藤 達也 (宮城県 仙台医療センター 副薬剤科長)
齋藤 若菜 (宮城県 仙台医療センター 呼吸器科医師)
佐々木 悟 (宮城県 仙台医療センター 検査技師)
白澤 由香 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
諏江 裕 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科長)
藤原 千春 (宮城県 仙台医療センター ケースワーカー)
道尻 論子 (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
吉田あゆみ (宮城県 仙台医療センター 薬剤科)
伊藤 瑠美 (青森県 青森県立中央病院 歯科衛生士)
久保 恒明 (青森県 青森県立中央病院)
寺嶋 歩 (青森県 青森県立中央病院 歯科衛生士)
成田 綾香 (青森県 青森県立中央病院 薬剤師)
山口ゆき子 (青森県 青森県立中央病院 歯科衛生士)
大内可成子 (青森県 国立病院機構弘前病院 薬剤師)
小山 俊朗 (青森県 八戸市立市民病院 歯科医師)
北原 栄 (秋田県 秋田赤十字病院 医師)
佐々木 梢 (秋田県 秋田赤十字病院 薬剤師)
小川 江美 (秋田県 秋田大学医学部附属病院 医療ソーシャルワーカー)
照井奈央子 (秋田県 秋田大学医学部附属病院 歯科衛生士)
古谷 博子 (秋田県 秋田大学医学部附属病院 歯科衛生士)
三澤 雪 (秋田県 秋田大学医学部附属病院 歯科衛生士)
伊藤 善信 (秋田県 秋田中央保健所 医師 所長)
畠山 陽子 (秋田県 大館市立総合病院 薬剤師)
林 昌功 (秋田県 大館市立総合病院 第一内科部長)
飯塚ネ農子 (秋田県 北秋田保健所 保健師)
後藤由佳理 (秋田県 平鹿総合病院 ソーシャルワーカー)
赤坂 博 (岩手県 岩手医科大学病院 臨床心理士)
朝賀 純一 (岩手県 岩手医科大学病院 薬剤師)
江六前景子 (岩手県 岩手医科大学病院 看護師)
近藤 昭恵 (岩手県 岩手医科大学病院 ソーシャルワーカー)
高橋 郁子 (岩手県 岩手医科大学病院 看護師)
玉川 聡子 (岩手県 岩手医科大学病院 ソーシャルワーカー)

及川 弘美	(岩手県)	岩手医科大学病院歯科医療センター	主任歯科衛生士)
星野 正行	(岩手県)	岩手医科大学病院歯科医療センター	歯科医師)
工藤 正樹	(岩手県)	岩手医科大学付属病院	薬剤師)
武内 健一	(岩手県)	岩手県立中央病院	副院長)
長澤 浩美	(岩手県)	奥州保健所	主任診療放射線技師)
菅原 智	(岩手県)	釜石保健所	医師 所長)
長澤 令子	(岩手県)	国立病院機構岩手病院	薬剤科長)
佐藤 正男	(岩手県)	国立病院機構盛岡病院	第一内科医長)
杉江 琢美	(岩手県)	国立病院機構盛岡病院	呼吸器科医長)
菅原 有一	(岩手県)	国立病院機構盛岡病院	薬剤科長)
菊池 武彦	(岩手県)	二戸保健所	主任)
小出トシ子	(岩手県)	二戸保健所)	
斎藤 正直	(福島県)	会津中央病院	歯科医師)
玉川 貴子	(福島県)	会津中央病院	歯科衛生士)
橋 智恵子	(福島県)	会津保健所	保健師)
新家 利一	(福島県)	いわき市保健所	医師 所長)
丹治 良道	(福島県)	いわき市立総合磐城共立病院	副薬剤技師長)
小針 可奈	(福島県)	太田熱海病院	ソーシャルワーカー)
野村 英範	(福島県)	太田総合病院付属太田熱海病院	薬剤師)
安田しのぶ	(福島県)	県北保健所	保健師 感染予防チーム)
鈴木 雅博	(福島県)	公立岩瀬病院	主任薬剤師)
瀧田 留美	(福島県)	郡山保健所	保健師)
湯田奈津子	(福島県)	竹田総合病院	医療ソーシャルワーカー)
今泉 貞雄	(福島県)	竹田総合病院	歯科医師)
小川 一英	(福島県)	福島県立医科大学病院	血液内科講師)
移川 基子	(福島県)	福島県立医科大学附属病院	薬剤師)
鳥羽 衛	(福島県)	福島県立医科大学附属病院	主任薬剤技師兼医学部助手)
金子 和子	(宮城県)	青葉区保健福祉センター	保健師)
高橋 雅子	(宮城県)	青葉区保健福祉センター	保健師)
大久保久美子	(宮城県)	石巻保健所	保健所長 医師)
藤原江美子	(宮城県)	泉保健所	保健師主査)
西條 尚男	(宮城県)	気仙沼保健所	医師 所長)
相沢 裕一	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	医療社会事業専門員)
安増 孝太	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	薬剤師)
小野寺久美子	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	心理療法士)
佐古 史	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	薬剤師)
佐々木俊明	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	歯科口腔外科医長)
佐藤 和洋	(宮城県)	国立病院機構西多賀病院	調剤主任)
沼田 政志	(宮城県)	仙台市立病院	歯科部長)
青野 美香	(宮城県)	仙南保健所	技師 結核感染症担当)
野崎 文	(宮城県)	太白区保健福祉センター	保健師)
内海 章友	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)
太田 貴	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)
小浜 耕治	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)
高橋 清子	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)
橋 美登里	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)
やまだまさこ	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ	NPO)

庄子 一昭	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ NPO)
菅原 一禎	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ NPO)
本郷 正武	(宮城県)	東北HIVコミュニケーションズ NPO)
玉澤 佳純	(宮城県)	東北大学歯学部附属病院 准教授(感染予防対策治療部副部長)
芦野 有悟	(宮城県)	東北大学病院 感染症呼吸器内科講師)
赤坂 明美	(宮城県)	宮城県保健福祉部 保健師主任主査)
猪狩 徹也	(宮城県)	宮城県薬剤師会 会営調剤薬局 薬局長)
中田 和美	(宮城県)	宮城野区保健福祉センター 保健師)
入野田昌史	(宮城県)	宮城県歯科医師会学術委員会 幹事)
太田 絢子	(山形県)	置賜保健所 保健師)
長岡 静子	(山形県)	置賜保健所 保健師 感染症予防専門員)
柏倉 貢	(山形県)	鶴岡市立荘内病院 臨床心理士)
松浦 宏美	(山形県)	鶴岡市立荘内病院 薬剤師)
前田真由美	(山形県)	村山保健所 保健師 感染症予防主査)
高梨 伸司	(山形県)	山形県立河北病院 薬剤専門員)
後藤 恵子	(山形県)	山形県立中央病院 主任薬剤師)
佐藤 弘子	(山形県)	山形県立中央病院 副薬局長)
齊藤 宗一	(山形県)	山形県立日本海病院 輸血感染対策部長)
有川 真理	(山形県)	山形市立病院 済生館 薬剤師)
佐藤 智也	(山形県)	山形大学医学部附属病院 薬剤師)
富永 綾	(山形県)	山形大学医学部附属病院 薬剤師)
大宮 敦子	(山形県)	山形大学病院 副看護師長 感染管理認定)
渡辺 真理	(山形県)	山形大学病院 看護職 感染管理認定)
関原 瞳	(山形県)	米沢市立病院 医療ソーシャルワーカー)
八幡 芳和	(山形県)	米沢市立病院 内科科長)
永井 英明	(東京都)	国立病院機構東京病院 呼吸器科医長)
伊賀 陽子	(兵庫県)	兵庫医科大学 助教(臨床心理士))
奥村 直哉	(愛知県)	国立病院機構名古屋医療センター 薬剤師)

研究分担者： 岡 慎一 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター長)

研究協力者： 伊藤 紅 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
菊池 嘉 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
窪田 志穂 (国立国際医療センター 看護部)
小池 芳子 (国立国際医療センター 看護部)
紺野 和子 (国立国際医療センター 看護部)
西城 敦美 (国立国際医療センター 看護部)
島田 恵 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
田沼 順子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
千田 昌之 (国立国際医療センター 薬剤部)
塚田 訓久 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
照屋 勝治 (国立国際医療センター 戸山病院、エイズ治療・研究開発センター)
中野 彰子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
中村 春香 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
八鍬 類子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター ((財)エイズ予防財団))
柳沢 邦雄 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
山田 由紀 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

研究分担者： 田邊 嘉也 (新潟大学医歯学総合病院助教)

研究協力者： 織田 幸子 (chotCAST なんば チーフコーディネーター)
塚田 訓久 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)
荒井 邦彦 (栃木県済生会宇都宮病院 総合内科)
花田留美子 (栃木県済生会宇都宮病院 看護部)
外島 正樹 (自治医科大学附属病院 血液科)
内海 英貴 (群馬大学医学部附属病院 血液内科)
馬渡 桃子 (群馬大学医学部附属病院 血液内科)
佐藤 健司 (群馬大学医学部附属病院 薬剤部)
川島久美子 (群馬大学医学部附属病院 血液内科)
中居映津子 (群馬大学医学部附属病院 血液内科)
青山 景子 (群馬大学医学部附属病院 血液内科)
石崎 芳美 (群馬大学医学部附属病院 看護部)
宮本 学子 (群馬大学医学部附属病院 看護部)
城田 陽子 (群馬大学医学部附属病院 中核拠点病院相談員 臨床心理士)
合田 史 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 内科)
品田 美穂 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 西5階病棟)
熊谷有希子 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 西5階病棟)
今井 涼子 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 西5階病棟)
宮崎八千代 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 西5階病棟)
平形 美幸 (独立行政法人国立病院機構高崎病院 西5階病棟)
小倉 秀充 (前橋赤十字病院 内科)
安福 弓子 (前橋赤十字病院 看護部)
樺沢紀久子 (前橋赤十字病院 看護部)
澤村 守夫 (独立行政法人国立病院機構西群馬病院 内科)
狩野 雅人 (独立行政法人国立病院機構西群馬病院 血液内科)
早坂 沙織 (独立行政法人国立病院機構西群馬病院 血液内科病棟)
山ノ井賢一 (独立行政法人国立病院機構茨城東病院 薬剤科)
岩上 明弘 (独立行政法人国立病院機構茨城東病院 薬剤科)
白鳥 隼人 (独立行政法人国立病院機構茨城東病院 薬剤科)
坂井 隼人 (独立行政法人国立病院機構茨城東病院 薬剤科)
柴崎智代子 (総合病院国保旭中央病院 看護部)
丹田三奈子 (独立行政法人国立病院機構千葉医療センター 看護部)
石井 武男 (独立行政法人国立病院機構千葉医療センター 薬剤科)
中村 安考 (千葉大学医学部附属病院 薬剤部)
荘司 京子 (千葉大学医学部附属病院 感染症管理治療部・看護部)
箕輪 真嗣 (埼玉医科大学病院 薬剤部)
逸見 和範 (埼玉医科大学病院 薬剤部)
新井 優 (埼玉医科大学病院 薬剤部)
宮崎 智佳 (埼玉医科大学病院 薬剤部)
斉藤 陽子 (埼玉医科大学病院 薬剤部)
瀬川 誠 (独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院 薬剤科)
渋谷 康寛 (都立広尾病院 呼吸器科)
高西 優子 (独立行政法人国立病院機構東京医療センター 薬剤科)
根本 満 (独立行政法人国立病院機構東京病院 薬剤科)
石船 重之 (独立行政法人国立病院機構東京病院 薬剤科)
竹浪裕見子 (公立昭和病院 看護部)
土橋 直子 (公立昭和病院 看護部)

- 佐野麻里子 (杏林大学病院 看護部)
- 中牧 剛 (昭和大学病院 血液内科)
- 辻 真理子 (東京医科大学病院 薬剤部)
- 友田由香子 (東京医科大学病院 薬剤部)
- 山本 由香 (東邦大学医療センター大森病院 在宅療養相談室)
- 坂田和佳子 (日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部)
- 奈良 弘恵 (日本医科大学付属病院 薬剤部)
- 鯉淵 智彦 (東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科)
- 平野 哲 (東京大学医科学研究所附属病院 看護部)
- 露木久美子 (東京大学医科学研究所附属病院 6階病棟)
- 花岡由美子 (東京大学医科学研究所附属病院 外来)
- 石井 潤 (東京女子医科大学病院 薬剤部)
- 若木 明子 (国家公務員共済組合連合会立川病院 薬剤科)
- 菊地 良子 (国家公務員共済組合連合会立川病院 看護部)
- 加瀬 俊一 (社会保険中央総合病院 薬剤部)
- 佐々木純子 (駿河台日本大学病院 看護部)
- 濁川 博子 (都立豊島病院 感染症科)
- 伊藤 恵子 (都立豊島病院 緩和ケア科)
- 河内 大和 (都立豊島病院 薬剤科)
- 三浦 滋子 (都立豊島病院 看護科)
- 黒澤 香織 (東京臨海病院 看護部)
- 上田 敦久 (横浜市立大学附属病院 リウマチ血液感染症内科)
- 竹林 早苗 (横浜市立大学附属病院 看護部)
- 松山 奈央 (横浜市立大学附属病院 看護部)
- 広島 愛 (横浜市立大学附属病院 看護部)
- 小平 純子 (横浜市立大学附属病院 看護部)
- 中川 潤一 (津久井赤十字病院 内科)
- 宮坂裕美子 (津久井赤十字病院 薬剤部)
- 高橋いづ子 (津久井赤十字病院 看護部)
- 伊藤 正仁 (東海大学医学部附属病院 総合内科)
- 岡 晶子 (東海大学医学部附属病院 総合内科)
- 上田 晃弘 (東海大学医学部附属病院 総合内科)
- 横山 直 (東海大学医学部附属病院 薬剤部薬剤科)
- 和田 彩子 (北里大学病院 薬剤部)
- 中島恵利子 (長野県立須坂病院 感染制御室(看護部))
- 永井智恵子 (独立行政法人国立病院機構長野病院 看護部)
- 武井美千代 (独立行政法人国立病院機構長野病院 看護部)
- 東條 美帆 (独立行政法人国立病院機構長野病院 診療部地域医療連携室)
- 鄭 真徳 (佐久総合病院 総合診療科)
- 小池 宙 (佐久総合病院 総合診療科)
- 桜井 直江 (佐久総合病院 看護部)
- 小林 近子 (佐久総合病院 看護部)
- 中島 京子 (佐久総合病院 看護部)
- 小林 麻耶 (佐久総合病院 看護部)
- 町田 修一 (長野赤十字病院 薬剤部)
- 山口真由美 (長野赤十字病院 内科外来)
- 西野 由香 (長野赤十字病院 内科外来)

- 田中美弥子 (長野赤十字病院 看護部)
 山本 真紀 (山梨赤十字病院 看護部)
 太田 求磨 (新潟県立中央病院 内科)
 伊藤 志保 (新潟県立中央病院 内科外来)
 杉山みゆき (新潟県立中央病院 内科外来)
 塚田 弘樹 (新潟市民病院 感染症科)
 小原 竜軌 (新潟市民病院 感染症科)
 山田 徹 (新潟市民病院 薬剤部)
 佐藤 育実 (新潟市民病院 看護部)
 桑原 克弘 (独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院 内科)
 上杉 雅子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 太田 真美 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 早川 景子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 阿部由美子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 佐竹紀代美 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 長谷川伊里子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 菊地 陽子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 扇長 雪枝 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 清水さなえ (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 茂呂 寛 (新潟大学医歯学総合病院 第二内科)
 張 仁美 (新潟大学医歯学総合病院 第二内科)
 三船 大樹 (新潟大学医歯学総合病院 第二内科)
 馬場 順子 (新潟大学医歯学総合病院 第二内科)
 内山 正子 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 川口 玲 (新潟大学医歯学総合病院 看護部)
 牧野麻由子 (新潟大学医歯学総合病院 感染管理部)
 古谷野淳子 (新潟大学医歯学総合病院 感染管理部)
 手塚 貴文 (財団法人エイズ予防財団 新潟大学医歯学総合病院 リサーチレジデント)
 相馬みさ子 (財団法人エイズ予防財団 新潟大学医歯学総合病院 リサーチレジデント 感染管理部)
 須貝 恵 (財団法人エイズ予防財団 新潟大学医歯学総合病院 リサーチレジデント 感染管理部)
 黒羽 高志 (財団法人エイズ予防財団 新潟大学医歯学総合病院 リサーチレジデント)
 小林美佐江 (新潟県福祉保健部健康対策課 新潟県派遣医療ソーシャルワーカー)
 鈴木 美穂 (新潟青陵大学大学院)
 小林 裕子 (信州大学医学部附属病院 医療福祉支援センター)
 小竹美千穂 (信州大学医学部附属病院 医療福祉支援センター)
 柳沢 邦雄 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)
 上田 幹夫 (石川県立中央病院 血液免疫内科)

研究分担者： 上田 幹夫 (石川県立中央病院 血液免疫内科 診療部長)

研究協力者： 青木 剛 (石川県立中央病院 血液免疫内科)
中野久美子 (石川県立中央病院 看護部)
清水 明美 (石川県立中央病院 看護部)
高山 次代 (石川県立中央病院 看護部)
山田三枝子 (石川県立中央病院、財団法人エイズ予防財団)
金田 智子 (石川県立中央病院、財団法人エイズ予防財団)
北 志保里 (石川県立中央病院、財団法人エイズ予防財団)
辻 典子 (石川県立中央病院、財団法人エイズ予防財団)
小谷 岳春 (NTT西日本金沢病院 内科)
山下美津江 (石川県立中央病院 医療相談室)
浅井いづみ (石川県立中央病院 医療相談室)
福田 希美 (石川県立中央病院 管理局)
安田 明子 (石川県立中央病院 薬剤部)
表 志穂 (石川県立中央病院 薬剤部)
下川千賀子 (石川県立高松病院 薬剤科)
原田 範子 (石川県立中央病院 栄養部)
宮田 勝 (石川県立中央病院 歯科口腔外科)
能島 初美 (石川県立中央病院 歯科技術室)
山本 裕佳 (石川県立中央病院 歯科技術室)
片田 圭一 (石川県立中央病院 リハビリテーション部)
佐々木博正 (石川県立中央病院 産婦人科)
山田 里佳 (石川県立中央病院 産婦人科)
林 明子 (石川県立中央病院 看護部)
山下 郁江 (石川県立中央病院 看護部)
岩崎 博道 (福井大学医学部附属病院 感染症・膠原病内科)
鳴河 宗聡 (富山大学附属病院 感染症治療部)
舟田 久 (富山大学附属病院 感染症治療部)
吉田 喬 (富山県立中央病院 血液内科)